

1 稲作農業で地域に貢献したい

宮本 真優夏

(平成 17 年度農学科水田コース卒)

就農年	平成 18 年
就農地	茨城県龍ケ崎市
主な作物	コメ



新米を心を込めて地域の皆さまへ届けたい

【農業大学校に入学したきっかけ】

私の家は稲作専業農家ですが、高校生の時までは、農作業を手伝うことはほとんどありませんでした(年末の餅つきくらいは手伝いましたが、...)。高校3年生になり将来の進路を決める時期が近づいた頃、父が専業として農業に従事し、我が家の生活が成り立っていることを強く意識するようになり、父の跡を継いで就農することを考え始めました。

高校生までの私には農業の知識や経験がありませんでしたので、私が就農するには、農業に関する知識や技術の習得が必要であると感じました。父が農大の卒業生であったことから、農大への進学を考え、オープンキャンパスに参加してみました。そこで、先輩たちが楽しそうに実習に取り組む様子を見て、また、バーベキューでは先輩たちの農業に対する熱い思いを聞いて、私は農大に進学することを決心しました。

【充実した農業大学校生活】

自宅での就農に役立つように、農学科でコメを中心に勉強することにしました。しかしながら、プロジェクト研究では、自宅で栽培する機会のなかった作物に興味を持ち、ダイズをテーマに栽培や調査に取り組みました。また、昼休み時間や、始業前や始業後の時間を利用して、学校内での果樹や露地野菜の栽培、牛や豚の肥育の様子を近くで見学し、同級生や先輩、先生方からいろいろな話を聞くことが出来たのは、楽しく得難い経験となりました。このように、農大では作物の栽培技術を学んだだけではなく、先生方や先輩、友達にも恵まれて、充実した学生生活を送ることができました。

【卒業後即就農を決意しました】

農大在学中は就職を考えた時期もありましたが、農大を卒業するころには、入学時点よりも家の経営面積が増えていて、私がやらない訳にもいかないし.....といった状況のため、卒業後即就農を決意しました。

【現在の取り組み】

夫婦で力を合わせてコメ作り・販売に取り組んでいます。主人は非農家で、結婚前は農

業とは関係のない仕事をしていましたが、結婚をきっかけに農業を始められました。主人が子育てそしている私の分まで頑張ってくれています。機械を使った田植えや稲刈りなどは、主人や男性社員の仕事です。私は経理、春先は種切の消毒、育苗、田植え時の灌水、秋は精米や、お得意さんへの配達や宅配便の発送を担当しています。お得意さんは個人宅、病院、飲食店など様々です。そのほか、職員の食事の準備、地主さんの所を回ったり賃貸料を届けたりするのも私の仕事です。



二人で力を合わせて



収穫したコメを運搬

【これからの夢や目標】

地域の人に我が家の美味しいコメをもっと食べてもらえるように、地元中心に顔の見える販売先を開拓して行きたいと思っています。インターネット販売は現在考えていません。小学校の田植え体験や稲刈り体験を引き受けており、これからも継続していきたいと考えています。今後とも、地域に密着した経営を行い、今後も地域に貢献できる農業のあり方を模索していきたいと考えています。

【農業を学びたい人へ】

私の場合は、家が農業をやっていたというのが、農業を志した一番の理由でした。最近では、農業を志す非農家の人たちが増えていることをお聞きします。非農家で就農を目指すことは凄いなって思います。今は、いろいろな支援制度がありますので、それらをうまく活用して、夢を実現させて欲しいと願っています。

農大に入学すると、先生や友人のほか、農業者、農協、行政関係者などいろいろな人とのつながりができます。また、自分が知らない農業分野を知ることもできます。現在農大で学んでいる皆さんや農大入学を考えている皆さんにとって、農大での学びが今後の人生を切り開くきっかけになることを願っています。



ここが私の作業ほ場